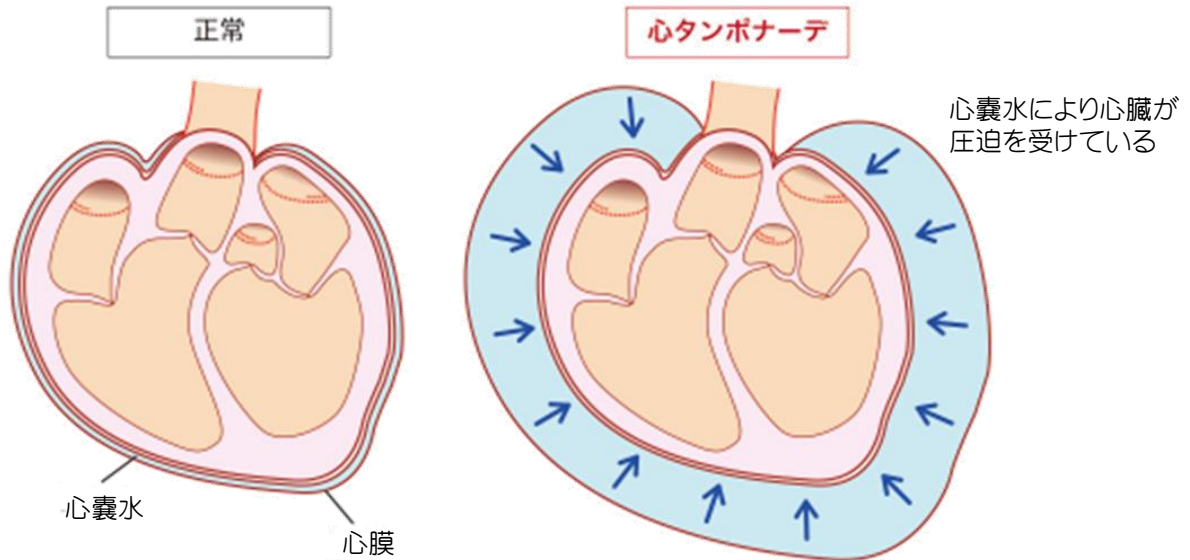


心タンポナーデとは

心臓の周囲は心膜で覆われています。心臓と心膜の間に液体(多くは血液。心嚢水と呼びます)が貯留してしまうことによって心臓に外圧がかかり、心臓の動きを抑制してしまう状態を心タンポナーデと言います。循環不全に陥り、**血圧を維持できず亡くなってしまうことも多い緊急疾患**です。



《症状》

- 呼吸が荒い、呼吸困難
- 舌の色が白っぽい
- 食欲がない
- 運動不耐(動きたがらない、散歩を嫌うなど)
- 失神 等

《原因》

- 心臓腫瘍(多くは血管肉腫や大動脈小体腫瘍)
- 僧帽弁閉鎖不全症による心房破裂
- 交通事故などの外傷
- 特発性(原因不明)

《治療》

◆ 心嚢水抜去

原因がどうであれ、心膜内に針を刺し心嚢水を抜くことで圧迫を解いてあげることが第一です。しかしちょっと針が深ければ心臓を傷つけてしまう恐れがあるため、慎重な手技が必要となります。原因にもよりますが、一度抜去しても繰り返し溜まってしまうため、頻回の処置が必要となります。

◆ 心膜開窓術

全身麻酔下で心膜を切開し、水が溜まっても胸腔内に液体が逃げられるようにすることで心臓の圧迫を防ぐ手術です。物理的な心臓の圧迫を解いてあげることでQOLの向上や生存期間の延長を期待して行います。しかし原因を除去できるわけではないため根本治療にはならず、心嚢水ではなく胸水(胸腔内に液体が貯留する)でも定期的な抜去が必要になるなど、メリットだけではない手術です。

◆ 化学療法(抗がん剤)

心臓腫瘍が原因の場合に選択されます。残念ながら心臓近くの腫瘍は外科切除が難しいため、抗がん剤治療で少しでも腫瘍の増大を防ぐ目的で行います。

大動脈小体腫瘍(ケモデクトーマ)は短頭種に多い心臓の悪性腫瘍とされています。

血管肉腫の場合、成長や転移が早く抗がん剤治療をしても余命が限られてしまうため慎重な判断を要します。いずれにしても、副作用や本人の状態と併せてよく相談しましょう。

◆ ステロイド

特発性の場合、ステロイド剤が著効することがあります。